

科目名	油絵基礎演習
単位数	2.0
担当者	講師 菅亮平
履修時期	前期
履修対象	1年次
講義形態	演習
講義の目的	多様な表現の展開可能性を持った油絵の基礎課程として開講する。 「自室あるいは生活空間から」と題した本科目では受講生の生活環境を題材とし、絵画、ドローイング、写真、映像、立体など任意の表現素材・手法に基づいた自宅での自由制作課題とすることで、身近な場所から作品の主題を発見し、制作行為を通して構想を深める態度を身につける。
到達目標	日常生活の中にテーマを発見し創作に向かう態度を身につける。 (知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性)
受講要件	油絵専攻の学生は1年次必修科目であるので履修すること。
履修取消の可否	否
履修取消不可の理由	1年次必修の専門科目である。
事前・事後学修	油絵専攻共同研究室の専用オンラインプラットフォームで必要事項の伝達及び課題提出を行うため、受講生は事前の登録を行う。
講義内容	<p>[課題概要]</p> <p>画家やアーティストは、それぞれが生まれ育った場所あるいは生活する環境の様々な条件から作品制作を出発します。また「家」や「部屋」というパーソナルな場所には自ずとそこに暮らす人のパーソナリティ(人間性)やリアリティ(真実性)が反映され、そこで過ごした時間の痕跡が刻まれていきます。そして近現代の多くの画家・アーティストたちが、自身の生活空間を題材とした絵画作品・アート作品を制作してきました。彼らは閉ざされた私的空間の中を注意深く観察し、そこから生まれたインスピレーションや問題意識を作品の主題やその背景に設定したのです。</p> <p>本課題に取り組むにあたって、まず皆さんの身の回りの状況を改めて見渡してみてください。新入生である皆さんの中には、親元や郷里を離れ一人暮らしを始めたばかりの学生もいるでしょう。出来たばかりの「自分の部屋」は、これからの新生活の展望を反映するものではないでしょうか。あるいは、各自の趣味や関心に基づいて収集した衣服や家具、コレクションなどの中に、皆さんのアイデンティティを端的に物語る事物が見つかるかもしれません。</p> <p>自室や生活空間の中で気づいたこと、発見したこと、注目した風景を題材にして作品を創ってみましょう。</p> <p>[プログラム]</p> <ol style="list-style-type: none"> 01. 課題説明のガイダンスを行う。 02. 本課題の主題に関する参考作品例の解説レクチャーを行う。 03. 各自の生活環境をリサーチして作品の題材となる対象や風景を選定する。 04. ウェブ会議アプリケーションを用いて個別の中間チュートリアル(1)を行い、各自の制作方針を決定する。 05. スケッチ、ドローイング、写真・映像撮影などを通して、作品制作のための具体的なプランニングを行う。 06. プランニングとチュートリアルの内容を基にして、必要な素材や機材を揃えて制作準備を行う。 07. 受講生は順次作品制作にとりかかる。 08. 各自が設定した狙いに基づいて表現方法を工夫しながら作品制作を進める。 09. 課題期間の中盤で制作の進捗状況をオンラインの専用プラットフォーム上で報告し、チャット形式で中間チュートリアル(2)を行う。 10. 受講生は各自で完成に向けて作品の細部に注意を払いながら制作を進める。 11. 課題期間の後半で作品を完成させ、同時に講評に向けたプレゼンテーションの準備を行う。 12. 作品タイトルを決定し、キャプション情報と説明文を準備する。 13. オンラインの専用プラットフォーム上で作品を撮影した画像と説明文を提出する。 14. 作品の現物あるいはその記録を大学へ持参し、対面形式で講評を個別に行う。 15. 受講生がそれぞれの提出作品について相互にコメントし合うことで次作に向けた課題を検証する。
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	演習中の取り組みの姿勢や授業態度と課題説明の捉え方や講評会でのプレゼンを評価の基本条件とし、提出作品の造形力や表現内容について点数化して評価する。 指導に則して表現力や技術力の修得について関心をもって制作したと認められ、作品提出が完了(提出作品は記録で残します)した場合に、単位取得の基準と条件を満たしたものと評価する。 判定の基準として課題への取り組みや提出作品の内容が満たされていれば「可」とし、提出作品の内容や造形的に工夫がなされているものを「良」とする。これらに加え、制作において各々が問題意識と自身の取り組むべき課題意識を見つけ出す自己分析をはじめとする積極的な取り組みの姿勢や工夫など、授業態度も含めた総合的観点において高い学習成果が認められたものを「優」とする。その中でさらに独自性を表した制作について「秀」と認定する。
教科書等	特になし。参考図書・ウェブサイトの情報は授業内で適宜紹介する。
担当者プロフィール	東京藝術大学で博士号(美術)、ミュンヘン造形美術アカデミーでマイスターシューラー号を取得する。現代アートの領域で国内外を問わず美術作家として活動する。 アーティストウェブサイト: https://ryoheikan.com 授業用ウェブサイト: https://class.ryoheikan.com
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	提出した作品は講座の最終日に講評する。
アクティブ・ラーニング	PBL(学習者が自ら問題を発見し、設定した課題を解決しながら学ぶ)、TBL(少人数チーム学習により、グループで共同して互いに教えあう能力を鍛える)
キーワード	油絵、絵画、ドローイング、写真、映像、立体、インスタレーション、室内空間、生活空間
備考	※ 新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、講座内容の一部あるいは大幅な変更もありえる。受講生は大学ホームページや教員からの指示に今後も注意する。

閉じる